

ニホンアカジマウンカ *Ommatidiotus japonicus* Y.Hori

【選定理由】

名古屋市守山区を模式産地として記載された種で、きわめて限られた環境でしか生息が確認されていない。さらに生息地のほとんどは、都市近郊にある1ha未満の湿地であるため、今後造成などにより消滅する危険性が極めて高い。

【形態】

体長は翅端まで4.2~5.0mm。頭部は前方に突出し、幅の約1.4倍の長さがある。頭頂部から小楯板の先端まで赤色の条線が走る。翅は半透明で、雄では前縁に黒色の縁取りと6条の橙色の条線があるが、雌ではこれらを欠く。現在知られているのは短翅型のみで、後翅は痕跡的である。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市、豊田市、新城市、日進市から記録されている。

【国内の分布】

静岡県、岐阜県。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

生息地はいずれもいわゆる低層湿地と言われる湿地で、シラタマホシクサなどを含んだ植生と密接に関連している。寄主植物は不明であるが、ヨーロッパなどに産する近縁種の食草から推定するとカヤツリグサ科植物であろうと思われる。成虫は6月末頃から9月まで見られる。9月に終齢幼虫を採集しているが越冬態はおそらく成虫と考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

模式産地を含めたいずれの産地でも近年の調査で採集されておらず、追加の産地も確認されていない。

低湿地に分布するため、湿地の埋め立てや周辺工事の影響で生息地そのものが消滅、または水源が断たれたことによる乾燥化などで減少したものと考えられる。

【保全上の留意点】

人里近くに分布するため、宅地造成などの開発行為に対しては難しい面があるが、シラタマホシクサが生育するような低湿地の保全が重要であり、周辺地域も含めた水源の確保にも留意する必要がある。頸吻亜目の種群は小型種が多く識別も難しいため、一般にほとんど採集されない面もあるので、より詳細な分布調査が必要である。

【関連文献】

林 正美・友国雅章・吉澤和徳・石川 忠, 日本昆虫目録 第4巻: 348. 樞歌書房, 福岡.

Hori Y., 1977. A New Species of the Genus *Ommatidiotus* (Homoptera Issidae) from Japan.

Annot. Zool. Jap., 50 (2): 127-130.

堀 義宏, 1982. 愛知県の半翅目. 昆虫と自然, 17 (12): 22-25.

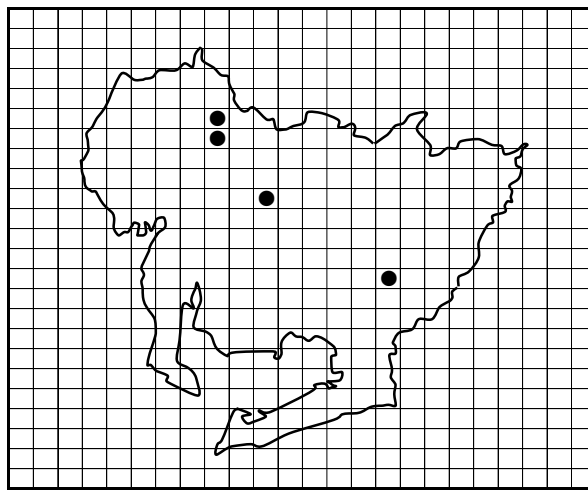
堀 義宏・浅岡孝知・原田猪津夫, 1990. 愛知県の頸吻亜目. 愛知県の昆虫, (上): 105-122. 愛知県.



左♂、右♀

名古屋市守山区大森, 1975年6月21日, 堀 義宏 採集

県内分布図



(2009年版を一部修正)